

平成 22年 5月17日現在

研究種目：基盤研究 (C)
 研究期間： 2007 ~ 2009
 課題番号：19530515
 研究課題名 (和文) 保健医療ソーシャルワークに関するコンピテンシ指標開発のための実証的研究
 研究課題名 (英文)
 The study for the development of the social work competency tool for the health services
 研究代表者
 小原 真知子 (OHARA MACHIKO)
 東海大学・健康科学部 准教授
 研究者番号：50330791

研究成果の概要 (和文)：

本研究は保健医療ソーシャルワークのコンピテンシーの構成要素を決める要因を明らかに、その指標開発を行う上で、先行研究を行い、コンピテンシーの向上がストレス反応を緩和すること、また職満足感を高めることなどを仮説として、質的・量的調査を行った。その結果、コンピテンシーの向上には、ソーシャルワーカーとしての経験年数や管理職業務の有無等の要素が関連していた。また、それがストレス反応を緩和することが証明された。さらに質的調査から抽出した行動アンカーは3つの因子で説明でき、職場環境、職務内容、給与に関する満足感とソーシャルワークの専門性に関する知識技術と関連性があった。

研究成果の概要 (英文)：

The purpose of this research was to invent the relationship between the characteristics of social workers in the health services and the factors involved in their competency -- mission, ethics, independence, knowledge, skills, motivation, and training, and to develop the social work competency tool. As a result of this research, the competency of macro, mezzo and micro was extracted. In addition, the social workers were related to the improvement of the competency those elements such as having years of experiment and managerial class duties or not. Furthermore, the improvement of this competency promoted the practice of "the problem measure's action," and it developed field to build the relationship with local resources. Along with these factors, competence will be influenced by the education, training, support system, the form of organization.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	800,000	240,000	1,040,000
2008年度	1,600,000	480,000	2,080,000
2009年度	1,100,000	330,000	1,430,000
総計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：社会福祉学

科研費の分科・細目：社会福祉援助技術

キーワード：保健医療ソーシャルワーク、コンピテンス、指標開発

1. 研究開始当初の背景

近年の保健医療に関するわが国の動向としては、医療法改正や介護保険導入などの影響を受けて、地域保健医療機関では病院サービスの効率性、効果性、経済性を追究するようになってきた。今後の動向から推察しても、医療機関における他職種との共同の中で専門家としての社会福祉援助介入の質を高める必要性がますます要求されてきている。その支援の方法の要として、ソーシャルワークの隣接領域である他の専門職も含めてケアマネジメントが唯一の専門性として主張されているが、それにより、社会福祉領域である元来のソーシャルワーク援助の専門性が軽視され、その独自性と固有性の境界が一層曖昧になってきたという感がある。「ソーシャルワークとは」という問いに我々が提示することの一助になりえるのが、専門職であるソーシャルワークに必要な資質や能力を明示することであり、他職種との相違性を明らかにする必要がある。

2. 研究の目的

本研究では概括的な整理に加え、実証的な立場から、国内の実践を分析することに加え、欧米の実践の分析を行い世界的動向から本研究を深める。本研究の仮説としてソーシャルワークコンピテンスは個人的な内的側面だけではなく、社会環境や物理的環境側面との相互作用で成長発達していくと考えられる。以上のことより、ソーシャルワーク援助技術の深化と発展のためにはソーシャルワークの専門性を構成するコンピテンスの構造を個人的側面と環境システムの両側面から明確に指標として開発する。社会福祉専門

領域の独自性と固有性を明示できる。さらに、社会福祉援助技術の発展に寄与できると共に、今後の保健医療ソーシャルワーク教育に貢献できると言えよう。

3. 研究の方法

(1) 先行研究；専門職コンピテンスの概念整理及び心理学、社会システム論、欧米のソーシャルワークコンピテンスに関する理論的研究と先行研究を行う。

(2) 質的調査；研究1：わが国の保健医療領域のソーシャルワーク専門家が支援を行う際に用いられるコンピテンスの構成要素を抽出するために、実践を行っているソーシャルワーカーからインタビュー調査による質的研究を行う。方法としては事例を提示してもらい、一連の援助展開から援助者の価値・倫理観、援助の視点、知識、技術、アセスメントの枠組み、援助方針と援助実施への連動、リアセスメントの視点、事後評価の視点、用いている理論、技法などを明らかにするためにインタビューおよび研究会開催し、研究枠組みの提示を行う。

(3) 研究2：保健医療領域ソーシャルワーク実践者への調査；対象者：日本社会事業協会の会員から無作為抽出したソーシャルワーカー500人程度。回収率を50%と推定し、質問紙を配布するデータ収集方法：質問紙を郵送し各々が自主的に返信して頂き、回収する。データ分析方法：インタビュー調査による質的研究によって抽出された枠組みに沿って、ソーシャルワーカーの支援状況を踏まえた上でのコンピテンスとの関連を分析し検討する。

(4) 研究3: 日本諸外国の保健医療ソーシャルワークに関するコンピテンスとして、FGI (フォーカスグループインタビュー) を開催し、保健医療領域におけるソーシャルワークコンピテンスの要因を抽出する。

(5) 研究4: 本研究は自己記入式質問紙による郵送調査法を用いた。研究対象者は日本医療社会事業協会の会員であり基礎研修、基幹研修、専門研修のいずれかを終了した者 629 人中、医療機関で勤務している者 480 人を抽出した。回収は対象者のプライバシー保持のため、質問紙は無記名とした。2010 年 1 月から 2 月に調査を実施した。

4. 研究成果

研究1: 医療ソーシャルワーカーを対象としたグループインタビュー調査を行った。研究方法は質的研究として、対象者を医療ソーシャルワーカー3 人とした。研究結果からインタビュー調査をもとにミクロ、メゾ・マクロと分けてソーシャルワークコンピテンスの分析整理を行った。ミクロに関するコンピテンスとして(1) 専門職としての価値観、(2) ソーシャルワークの特有の視点、(3) アセスメント能力、(4) 効果的・効率的介入の技術、(5) 巧みなコミュニケーションスキル、(6) 利用者・ワーカーの信頼関係を形成する能力が抽出された。メゾ・マクロに関するコンピテンスとして(1) ポジショニングと役割遂行能力、(2) チームアプローチと協働する能力、(3) 公正性を追求する姿勢 (4) ネットワーク化・住民組織化する能力、(5) 情報の効果的活用する能力が抽出された。社会福祉の第2 次機関として特徴である、とりわけ専門性の高い医療機関の中で、付加価値的存在として位置づけられているソーシャルワーカーは利用者中心の支援と地域において患者中心のネットワーク作りと、いわゆるミクロか

らメゾ、マクロまでの幅広い業務が可能である。さらに地域資源との関係性も構築することも得意とする分野であることが明らかになった。

研究2: 医療ソーシャルワーカーを対象とした郵送調査: 研究方法は量的研究とした。調査期間は 2007 年 10 月 24 日から 1 ヶ月とした。対象者は 2006 年 4 月から 2007 年 9 月までの日本医療社会事業入会者医療ソーシャルワーカー 616 名であった。研究結果では有効回答数は 343 票 (回収率は 55.7%) であった。主な調査内容は、基本属性 (性別、年齢、病院のソーシャルワーカーとしての経験年数、福祉職としての実務経験年数、現在の医療機関の病床数、所属する医療機関のソーシャルワーカーの人数、週の平均的な労働時間、管理職業務の有無、最終学歴、取得資格)、専門性自己評価尺度を用いたコンピテンシーの測定、ストレッサーとストレス反応、問題対処能力の測定を行った。調査の結果、コンピテンシーの向上にはワーカーとしての経験を積む必要があること、また、教育の機会を活用するなどの環境的な要因も関わるといふこと、そしてコンピテンシーの向上の阻害にはストレスが関与するが、積極的な問題解決を求めることで対処することができるということが明らかになった。

研究3: 既述の状況を踏まえ、本研究では保健医療分野で活躍するために必要なコンピテンシーとはどのようなものなのか、保健医療分野で活躍しているソーシャルワーカーを対象に FGI を開催し、調査を実施することとした。その調査票の項目を明確化するために、まず KJ 法を用いた作業を行った。研究会における議論の中でソーシャルワーカーの所属機関の特性や経験年数によって求められるコンピテンシーは異なるという結論に至ったため、急性期医療機関で部下を有す

る中堅以上のソーシャルワーカーをその対象と限定した。調査方法としては、保健医療福祉分野にて活躍している中堅以上のソーシャルワーカーと研究者 計6名が、それぞれ保健医療福祉分野のソーシャルワーカーに求められる能力とは何か付箋に書き出した。次にそれらの項目の妥当性、正当性について議論し、その上で残った項目についてファクター、コンピテンシー、行動アンカーにそれぞれ整理・分類した。さらに、より実践の場面で活用できるような指標とするために、既存の指標や指針よりもより具体的な行動レベルに落とすようにし、コンピテンシーによってもたらされる行動を「行動アンカー」とした。その結果、各コンピテンシー5～10の行動アンカーを含むものとなっている。プロセスの結果、まずファクターを、(1). 思考要因 (2). コミュニケーション要因 (3). ネットワーク要因 (4). 専門要因 (5). 自己管理要因 (6). 業務運営管理要因 (7). リーダーシップ要因とした。どのファクターも自機関内にとどまらず、対クライアント、地域、ほかの組織と連携・協働する際、保健医療分野のソーシャルワーカーに求められるコンピテンシーを含むものである。また、コンピテンシーや行動アンカーの中には別のファクターの中に重複するものがある場合もあるが、本調査の目的はソーシャルワーカーに求められる能力の明確化であり、その目的は項目の重複によって妨げられないと判断した。研究会では、ソーシャルワーカーのコンピテンシーという抽象的になりがちな事柄を、より実践に則した形で、より具体的に示すことができるようにという点を常に留意した。その結果、どのファクターにおいても、組織や社会、地域のなかで求められる役割を担い、業務を行うことを求められていることが含まれた。

研究4：調査票は保健医療分野のソーシャルワーカー480人に郵送した。201人から回答を得た（回収率41.8%）分析1では職場環境、職務内容、給与に関する満足感の検討に先立ち、尺度の因子分析を行い、MSW向けの職場環境、職務内容、給与に関する満足感測定尺度の修正を試みる。結果・考察として、医療ソーシャルワーカー向け職場環境、職務内容、給与に関する満足感測定尺度を再度分析した結果、第1因子は福祉職にとって給与は自らの生活を支えるものであり、また職場環境の大きな要因とも言える。これを「職場待遇と給与」と命名した。第2因子は自らが仕事を通して、自己実現を図り、社会的な貢献をしていくことにより、共にエンパワメントされるとして「達成感とやりがい」と命名した。第3因子は職場内の上司や同僚との人間関係と組織内の協働を示している。これを「職場組織内の人間関係」と命名した。この尺度は医療ソーシャルワーク分野においても十分活用できるといえる。さらに、医療ソーシャルワーカーにどのような専門的知識、技術が必要なのかを明らかにしたい。そこで、上述したとおり専門ソーシャルワーカーによる会議を重ねKJ法で抽出できた項目の因子分析を行い、MSW向けの専門性に関する指標作成を試みる。方法は「(1). 専門的知識を有する(2). 専門的技術を有する(①面接技術②アセスメント技術③介入技術④グループ介入技術⑤地域介入⑥その他対人援助技術、(3). アドボケイト4. 研究)の4つのコンピテンシーを構成し、それに対して63の行動アンカーを分析対象とした。主因子法により因子を抽出し、その後、プロマックス回転を行った。結果・考察はソーシャルワークの専門性に関する知識技術に関する分析を行った結果、第1因子は34項目で構成されており、ソーシャルワーク業務を行う上で

アドボケイト能力を含むソーシャルワーク支援を行う上で必要な基本的能力が高い負荷量を示していた。そこで「ソーシャルワーク支援能力」と命名した。第2因子は17項目で構成されており実践を理論化するプロセス能力や理論に関する知識が高い負荷量を示していた。そこで「ソーシャルワーク理論化能力」と命名した。第3因子は10項目で構成されており、ソーシャルワーク業務を行う上で、必要な基本的な知識や能力が高い負荷量を示した。そこでこれを「組織内外業務遂行能力」と命名した。下位尺度間の関連に関しても3つの下位尺度は互いに有意な正の相関を示した。さらに、ここでは、専門性得点と職務満足感の関連を検討した。その結果、専門性と満足度は有意な正の相関を示した。以上のことから、本研究から明らかになったことは、(1). 専門的知識を有する、(2). 専門的技術を有する、(3). アドボケイト(4). 研究に分けた行動アンカーは3つの因子で説明できた。さらに職場環境、職務内容、給与に関する満足感とソーシャルワークの専門性に関する知識技術は関連性があった。今後の課題は作成された指標を実際に活用し、妥当性を高めることである。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

1. 小原 眞知子 「制限つき民間保険が主流のアメリカソーシャルワーカーを悩ませるジレンマとは一」月刊ケアマネジメント pp22-25 2009年 環境新聞社 査読なし

[学会発表] (計4件)

1. 塩田 哲也・小原 眞知子「保健医療現場における実習枠組みに関する検証」神奈川県医療社会事業協会実践報告会 2009/11/8

2. 小原・眞知子「地域福祉と退院支援を巡る

ソーシャルワークの課題」韓国医療ソーシャルワーク学会 2009/5/13

3. 塩田 哲也・小原 眞知子「保健医療現場実習における学生の関心の変容と自己覚知との関係 - コンピテンス概念と実習枠組みを用いた分析と考察 -」 関西学院大学 日本医療福祉学会 2009/9/13

4. 塩田 哲也・小原 眞知子「保健医療現場実習における学生の関心の変容と自己覚知との関係 - コンピテンス概念と実習枠組みを用いた分析と考察 -」 山形コンベンションセンター 日本医療社会事業協会 2009/5/16

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小原 眞知子 (OHARA MACHIKO)

東海大学・健康科学部 准教授

研究者番号：50330791

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

井上 健朗 (INOUE KENRO)

昭和大学病院・総合相談センター医療ソーシャルワーカー

上田まゆら (UEDA MAYURA)

日本女子大学・人間関係学部 助教

金子 美智子 (KANEKO MICHIKO) 東京医科歯科大学付属病院・総合相談室・医療ソーシャルワーカー

栗原 幸江 (KURIHIRA YUKIEA) 静岡県立ガン

センター 緩和医療科 臨床心理士

塩田 哲也 (SHIOTA TETUYA) 東海大学医学
部附属八王寺病院・総合相談室・医療ソーシ
ャルワーカー

三澤 (田代) 直子 (MITUZAW NAOKO) 小田
原 循環器病院 医療ソーシャルワーカー